

【外部研修 北海道言語聴覚士会第 19 回学術集会に参加して】

名前：高坂 泰平

【感想】

今回、札幌で行われた学術集会に参加してきました。

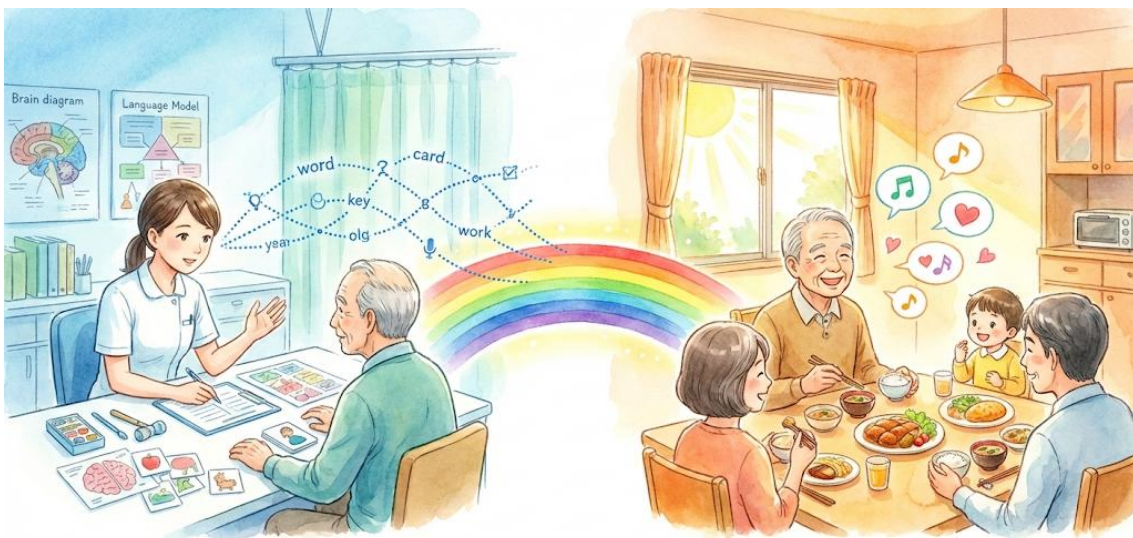
特別講演では岡山県立大学の中村 光先生から「失語症の言語訓練とコミュニケーション評価」について、日本言語聴覚士協会会長内山 量史先生より「全世代型社会保障制度の実現に向けて言語聴覚士が果たす役割」という内容で講演を聴講してきました。

失語症の症状に関して言語情報処理モデルを用いて評価や訓練内容を解説して下さり非常に参考になりました。また、失語症者への訓練の真の目的はコミュニケーション活動であるというキーワードがとても印象に残りました。

私自身も失語症を抱えた患者さんをリハビリすることもあります。退院してからの生活の中で患者さんのコミュニケーションを支えているということを強く実感しました。責任感がある仕事であると同時に、自分の仕事に誇りを持って取り組んでいきたいと思いました。

内山先生の講演の中では私たちが働きやすい環境作りに向けて実態調査やリハビリ職の処遇改善の実現するために政府に直接働きかけや、より高い質を担保するための教育システムの構築や後継者対策など言語聴覚士が社会で貢献できる仕組み作りなど今後の在り方を学ぶことができました。

とてもやりがいのある仕事だと思いますので、もしこの感想を通して言語聴覚士に興味や関心をもってもらえると嬉しいです。



訓練の真の目的はコミュニケーション活動である